

# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

## プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てUターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビューの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

## 「転勤族のための新潟弁講座」

春はスタートの季節です。転勤等で新潟暮らしを始めた人のために、「新潟弁講座」をお届けいたします。

まず、初めて新潟の地を踏んだ人がびっくりすることばの筆頭は「なじらね」。県内では、市場・地元商店街等では比較的好く耳にすることばで、いわば新潟弁の代表格のあいさつ用語です。「なじらね、まけとくよ」（いかがですか？お安くしますよ）、「なじらね、元気かね？」と日常的に使用しますが、これが意外にも県外人泣かせ？のことばです。

知り合いの転勤族の某氏（北海道出身・某金融機関・単身赴任）は、新潟市の本町市場に初めて足を運んだ際、野菜や漬物売りの元あねさまに、「旦那さん、なじらね？今晚の酒の肴に」と大根の味噌漬を勧められて、思わず腕時計をみてしまった話をこっそり披露して下さいました。

また、わが家では、かつて新潟に来てまもない大学生（愛知県出身・新潟大医学部）に、祖母が「新潟、なじですか？」と聞いたら、彼は「あっ、はい、今〇〇時です！」と大真面目に答えたという話があります。

「なじら？」「なじらね？」ひとことで、「ごきげんいかがですか？」「お加減はいかがですか？」

「調子はどうですか？」「味加減はいかがですか？」「お湯加減は？」「出来栄えは？」等々、安否、体調、心理状態、飲食、入浴、天候、売れ行き、仕事や勉学の進捗状況等々を表すオールマイティなことばです。転勤族の方は、TPOに合わせて自由自在に使ってみることをお勧めします。

次に、覚えておくと役立つことばは、「しかも

か」。これもまた、転勤族の某氏（九州地方出身・某公的機関）から聞き出したことばです。新潟の味覚で少々重くなった体のために、信濃川べりを朝ジョギングして、顔なじみになった元あにさまに、某氏は「昔、この辺で鮭が獲れたのですか？」と尋ねたところ、「ああ、しかもか獲れたねえ」と言われ、「鹿も獲れたのですか？」とびっくりして聞き返したとか。新潟では、たくさんあることを、「しかも」「しかもか」と表現するので、これも転勤族は覚えておいたほうが何かと便利なことばでしょう。「しかもか」と同義語に「いっぺこと」がありますが、こちらは主に数的な場合に、「しかもか」は量的な場合に使われているのもまた味わい深いと思います。

さらに、新潟には「新潟時間」と言われるものがあり、特に県外人は面喰います。会合の集合時間になっても、人が集まらないから開始時刻が15分？遅れ。実は、当人達は近くまで来ているけど、一番乗りは恥ずかしいのでぐずぐずしているうちに、定刻に遅れてしまう、という県民の奥ゆかしさ？を表した県民の不思議な習性です。とはいえ国会のセンセイ方も含めて、改めた方が得策ですが、転勤族は心に留めておきましょう。

広い県内には、まだまだいっぺことその土地のことばがあります。縁あってこの地に住む人・住んでいる人が、ことばを通してよき出会いがありますように……。

